

発表会を通じて

チーム評価 A をください c1251490 佐藤優空

A) 他チームの発表を聞いて

自分たちのチームにない解決策を提案し、参考になったのは、「オムライス班」と「FOODS 班」です。

オムライス班は、高齢化による判断能力の低下、道路環境、不注意の三つを課題として挙げています。課題を解決するため、光により注意する所を明確にし、音により視覚情報からは読み取ることができない情報を運転者に伝えるという方法が挙げられていました。光や音により、人の判断力や注意力の低下を「本人の努力」だけに任せず、技術や環境の工夫で補おうとしている所が参考になりました。

FOODS 班は、免許返納したいと思っても現在の生活環境では返納が困難、車依存により公共交通機関の利用が進まない、バスドライバーの人手不足により利便性の向上が難しい、という現状が挙げられています。現状を変えるために、ハスの利用を促進するために仮想通貨を活用する方法を挙げていました。バスを使うことで仮想通貨のようなポイントを受け取ることができる。ここで空いている時間帯にポイントを多く付与することによって利用者の行動を調整する事が出来る。利用者はポイントをバスの運賃や買い物に利用することが出来る。また商店街側も受け取ったポイントで配送の依頼や優先対応などに使える。その他にもスマホアプリや IC カードで使えるようにして利便性を上げるなどの方法で公共交通機関の利用促進をしようとしています。その中でも、バスと利用者、商店街を一つの循環として考えている所が参考になりました。

B) 地方都市における交通の問題を総合的に解決するための自分の意見。

自分たちのチームでは、都市交通における交通問題の原因として、人的要因では高齢者の判断能力の衰え、子供や若者の交通ルール理解が不十分、若者の過信による危険運転などが挙げられました。環境、制度的要因では免許返納後の移動手段が整備されていない、自動車と自転車が混在する危険な道路、歩行者中心の道路設計の不十分などが挙げられた。交通システムの問題については自動運転や MaaS は導入半ばで、利用性に欠ける、公共交通は人手不足によりサービス維持が困難などの意見が挙げられました。これに加え、FOODS 班の車依存により公共交通機関の利用が進まない。を追加します。

以上を踏まえると、地方都市における交通問題の課題は、大きく「安全面」と「公共交通機関の利用促進」の二つに整理できます。

まず安全面の課題として、高齢者の判断能力の低下や、子供・若者の交通ルール理解不

足、若者の過信による危険運転といった人的要因に加え、自動車・自転車・歩行者が混在する危険な道路環境や、歩行者中心の道路設計が不十分である点が挙げられます。また、安全性の向上が期待されている自動運転技術についても、現在は導入が途中段階であり、十分に事故防止へ活用されていないことが課題です。これらの要因が重なることで事故のリスクが高まり、個人の注意や努力だけに依存しない安全対策が求められています。

次に公共交通機関に関する課題として、免許返納後の移動手段が十分に確保されていないことや、バスドライバーの人手不足によるサービス低下、MaaSが導入途中で利便性に欠ける点が挙げられます。その結果、車依存の生活が定着し、公共交通機関の利用が進まない状況が生まれています。さらに、利用者の減少によってサービスの維持や向上が難しくなり、利便性の低下が再び利用者離れを招くという悪循環に陥っていることも大きな課題です。

これらから解決策として、安全面では高齢者の判断能力の低下による事故や若者の過信による危険運転による事故はオムライス班の光や音により危険なところを明確にすることによって事故を減らし、私たちの班とFOODS班が考えた仮想通貨やポイント、商店街で使える割引券などで公共交通機関の利用を促進することによって公共交通機関の利用を増やし、車と交通機関の利用を使い分けするメリットを作ることで公共交通機関の利用促進をしつつ、車に乗る人が減ることによって車通りが減り、自転車や歩行者、自動車が安全に移動することが出来る。このように道路を変えて安全を確保する直接的対策と利用者の行動を変えることで事故を抑制する間接的対策をとることで事故がかなり減っていくと考えました。

公共交通機関利用を促進させるためには、FOODS班の意見を踏まえ、MaaSの仕組みの中に仮想通貨のようなポイント制度を組み込んだ公共交通機関の利用促進策を行います。MaaSにより、バスやAIデマンド交通などをアプリやICカードで一括して検索・予約・決済できるようにし、利用履歴に応じてポイントを自動的に付与します。特に、空いている時間帯や利用者の少ない路線では多くのポイントを付与することで、利用者の行動を調整します。貯めたポイントは運賃の支払いだけでなく、地域の商店街での買い物や割引に利用できるようにすることによって利用者が増えていくと考えました。さらに、バスの運転に自動運転技術を段階的に導入することで、運転手不足の解消や運行の安定化につながり、公共交通機関を継続的に利用しやすい環境を整えることが出来ると考えました。自分のチームの検討時に比べて安全面強化、交通機関の利用増加が見込めます。

だがこの解決策にはいくつかの課題があります。まず、MaaSやポイント制度、音や光の導入された道路の導入には費用がかかり、自治体の負担が大きくなる可能性があります。また、高齢者の中にはスマートフォンやアプリの操作が難しい人もおり、全員が同じように利用できない点も問題だと考えました。さらに、自動運転技術についても安全性や制度面での課題が残っています。そのため、段階的に導入し、利用者へのサポートを行うことが必要だと考えました。

